

平成30年度 第1回 富士宮市女性応援会議 議事録

日時 平成30年11月1日(木) 午前10時00分～午前11時30分

場所 富士宮市役所1階111会議室

出席者

松浦委員(委員長)、朝日委員、芝切委員、加茂委員、渡邊委員、後藤委員、
白井教授(アドバイザー)
深沢部長(途中退席)、伊藤市民交流課長、
滝川女性が輝くまちづくり推進室長、秋葉主幹、白井主事

次第

1 開会

2 挨拶

3 議事

(1) 女性応援のための取組み報告について

- ・フォトコンテスト
- ・イクボス宣言について、庁内・庁外の取組み

(2) 意見交換

- ①女性目線を活かしたシティセールスの推進
- ②「ふじのくに輝く女性人材データバンク」について

4 閉会

3 議事 (1) 女性応援のための取組み報告について

・フォトコンテスト

[白井]実施報告の資料をご覧ください。前年度に続き、今年度も実施。テーマは、前回の女性応援会議でいただいた意見をもとに、「カジメン・イクメン」という男性を対象にしたものから変更し、今年は「家族」をテーマに、家族について振り返り、その存在の大きさを実感するための機会の提供として実施しました。

前回から変更点としてもう一つ、企業特別賞は前回2点でしたが、今回は6点へ増えました。ご協力いただきました女性応援会議の委員の皆様には、この場をお借りして感謝申し上げます。

応募総数につきましては、前回50点余りから、68点に増えました。審査は、庁内にて、机上に応募作品とコメントを一堂に並べ、それらを見て審査しました。いいと思う作品にふせんを貼っていただく(投票する)という方法で行いました。受賞作品は資料の通りです。応募作品、受賞作品は、市民ホールで1週間、イオンモールふじのみやの2階通路で10日間展示されました。

・イクボス宣言について、庁内・庁外の取組み

[滝川]前年度の活動として、H29年9月7日、市長を筆頭にイクボス育成宣言を行い、その後市管理職96人がイクボス宣言をいたしました。新年度に入り、新しい管理職が誕生しましたので、部課長会等でこの取組を紹介し、イクボスの趣旨について賛同いただける方につきまして、自主的にイク

ボス宣言をしていただいております、新たに24人の管理職が宣言されました。イクボス宣言が単なる宣言で終わることなく、各課において、それぞれの課の特徴に合わせて、部下の休暇や、いろいろなことに配慮しながら、自らもイクボスであることを認識して実行していただいております。また、教育関係では、総合教育会議に招かれ、この取組みを説明しまして、後日、市内小中学校の校長先生方がイクボス宣言をするというところまで到達しています。

さらに、民間については、地元の商工会議所青年部と協力し、7月研修としてイクボス講座を行い、イクボスについての理解を深めました。参加者のうち20人ほどが事後アンケートにてイクボス宣言を行いたいという意向を示していますので、これにつきましてもお声かけし、宣言というかたちにぜひ表していただきたいと思っています。

3 議事（2）意見交換より

①女性目線を活かしたシティセールスの推進について、委員どうしの意見交換を実施。（渡邊委員提案）

[委員長]富士宮市としてもシティセールスの推進には取り組んでいるところですが、女性目線を活かして、より活発な、より魅力あるものにするためにはどう取り組んでいったらいいか、委員の皆様のご意見を伺いたいと思います。まずは提案者である渡邊委員から、議題の趣旨についてご説明いただきます。

[渡邊]貴重な場をありがとうございます。これから市で暮らしていくにあたり、市が発展するために、まちが豊かになることは必要なことだと思いますが、そのためにどうしたらいいかという、やはり人が集まる魅力的なまちになるというのが一番大事ではないかと思います。では人が集まるには、どんなまちになればよいかということで、市の魅力はたくさんありますので、それらを受け手のニーズに合わせて上手に発信していく、ということが大切ではないかと思います。

今、市で「美守の都」ということで美をテーマに発信する、という動きがありますが、私もNPOに入り、きれいなまちを発信しようと、美まちラボとして5～6人チームで活動・発信していますが、もっともっと発信していきたいと思っています。そもそも「美」について、浅間大社に祀られているコノハナサクヤヒメが有名なのですが、女性誌で美のパワースポットで浅間大社が第3位になったりして、きれいになったり、縁結びなどで、人を集めるのにすごく魅力的なテーマだと思います。これを発信していくことで、人が集まり、企業からの関連商品や、食べ物やグッズなどがつくれ、全体的に経済効果が見込めるのではないかと思います。美を発信していくような取組みに、ぜひ皆さんから知恵を借りたいと思い、提案させていただきました。

[伊藤]シティセールスについて説明します。お手元の戦略指針ですが、昨年作成いたしました。この件につきまして、この会議で議論していただけるのは非常にありがたく思っています。渡邊委員がかなり説明していただいたので、なぞるような形になりますが、説明させていただきます。

富士山、やきそば、というところで富士宮の認知はありますが、それら頼みというところで、それには今はもう魅力があまり感じられないという調査も出ています。シティセールスに、もう少しいいものがあるんじゃないか、それらを束ねてうまく情報発信する必要があるのではないか、とい

うことでこの戦略指針でまとめる必要がありました。

まず目標を明確化するという一方で、「美守の都 ふじのみや」を目指す都市像としています。軸をつくる、発信するテーマを設定するという点において、市には非常にいいものがございます。歴史文化、自然景観、食産業、動植物の豊かさ、そういったところをテーマにして、それらを束ねてさらにターゲット層を絞り込み、伝えたい相手にしっかり伝える、といったところをこれ(戦略指針)にのっとなって取り組む必要があると感じています。

「的を絞る」について、女性にターゲットを当てていること、女性層にどのようなかたちで心に響かせていくか、どのように訴えていくかが必要かと思えます。女性は、SNS や口コミなどで発信して、効果的に広めてくれるので、女性の発信力の高さをうまく使えるようにしたい。戦略指針に基づいた取組を、企画戦略課を中心に産業振興部とも連携をとりながら行っています。

また、この取組みが民間にも波及していくように努力しているところです。女性応援会議の中でも、これを議論していただいてさらに深めていただけたらと思っています。

[委員長]ありがとうございました。富士宮市には、富士山、水の恵み、さくやひめ、歴史文化など美しいものがたくさんあります。そこで、これらの資産を PR して、きれいになるまち富士宮として、女性目線を活かした推進を行い、全国に発信して、人を集めていきたい、ということです。女性目線を活かして、より活発なもの、より魅力的なものにするためにはどう取り組んでいけばよいか、委員の皆様で意見交換をお願いします。

10分後に意見の発表をグループごとをお願いします。

B グループ

[渡邊]友人に富士宮を紹介する際、「焼きそば以外になにがあるの?」とよく聞かれます。富士山は世界的な観光地なのに、富士宮市はその恩恵を受けていない。資源や素材はとても良いものがあるのに、上手く発信できていないのかな、、、と思います。

[後藤]富士宮は通過地点になっている。目的地にしたいですね。

[渡邊]浅間大社に行ったあとに、なに食べよう、買おう、体験しよう、というものがあるといいなと思います。やってみたいと思っているのは、旅行社と提携して、日帰りプランを作って、東京からの女性客を狙った話題作りはどうか、と。雑誌やメディアに「東京から日帰りで行けるビューティーコース」とか、婚活サイトと提携して「婚活前に富士宮に行こう(きれいになるから)」とか、やってみたい。富士宮といってもぴんどこないので、プランやコースをつくっちゃえばいいかと。

[後藤]交通の便があまり良くないので、プランニングされているほうが来やすい、参加しやすいかと思えます。

[朝日]これらの情報で、女性たちをどう振り向かせるか、というのが大切ですね。

[秋葉]若い女性の方向けに発信していく必要があると思えます。浅間大社で美に関するお守りは売っていますか?

[渡邊]売っています。「美守り」ですが、なかなか話題性が難しいです・・・湧水で洗顔イベント、きれいになるご祈祷、というものもやっていたようです。襦ぎの恰好で顔を洗う、とか。

[後藤]地元なのに全然知らなかった。

[渡邊]きれいな人、憧れになるような人に、富士宮のそのような映える写真、風景、景色を発信してもらえると、影響力が大きいんじゃないかと思います。メディアにもどんどん発信して、むしろTV局の方から取材にきてもらえるようなところまでいくといいなと。これには、積極的に市から動いてもらうといいなと思います。

[滝川]有名な人に歩いていただくとか。

[渡邊]外見の美ではなくて、自然に触れて心をデトックス、とか、体も心もきれいになる、という「美」というテーマひとつに決めて、「ふじのみやに行ったらきれいになる」というイメージで発信したら、テレビを観た人が、富士宮に行ったらきれいになれるんだ、浄化されるんだと思っていきたくなるんじゃないかと思う。まずは市内で、美のまちというイメージを浸透させることが必要だと思います。

[後藤]そろそろ、やきそばだけを前面に出してもそれだけで終わってしまう。また新しい目線でセールスしていったほうがいいですね。

[秋葉]やきそばと美は結びつきにくい。どちらかという健康志向とか、美しくなるとか、そういう食べ物やグッズで結びつけたほうがいいと思う。何かありますか。

[朝日]野菜がおいしいっていいですね。水がきれいで。

[滝川]洗われるような、心もきれいになる、というようなイメージで。

[渡邊]化粧品をつくっていて、ふじのみやブランドとして、どの業種も関わるができることがいい点。女性が住みやすいきれいなまち、優しいまち。というと、移住してくる女性もいるのではないかな。

[朝日]都内の地下鉄の構内ポスターのインパクトを参考に。まずは、富士宮ってうつくしいってイメージを刷り込む、写真とか、プランとか。やきそばのときも、最初は、そんなことで来るわけじゃないという反応だった(、けど当たった)。逆に、最初から外に向けてどんどん打ち出してアピールして、後追いで市民がついてくる、ということでもいいのではないかな。

[秋葉]市外、県外の人に向けてのアピールに注力していくことが大切かと。

[朝日]都内は、所得も高いし、人も多いので狙いどころだと思います。

A グループ 意見発表

- ・全国的に有名な人を観光大使にする(森川夕貴アナ、工藤夕貴さんなど)
- ・女子はおいしい食べ物に弱い。1日24時間のプランを富士宮産のもので過ごす、というプランをつくる(水で洗顔、化粧水、朝日を浴びながら田貫湖でピラティス、富士宮でしか見られない景色)
- ・市に訪れているのに、富士宮市に来ている感覚がないのでは。まずは、(まかいの牧場など)富士宮市としての横ぐしをさし、富士宮をブランド化する必要があるのではないかな。富士宮ブランドマークを作成する。とか。

[白井]富士宮市の方が富士宮市の魅力に気づいていない、ということだと思います。当たり前子どもが川で遊んだり、海や山が近かったり、セミが採れたり、抜け殻を集めたりとか、これら当たり前をコンセプトにして発信したら、市民がまちを愛する気持ちも高まるだろうし、外に対しての発信にも効果的だと思います。明石市は、「小さなこどもは100%里親に」をコンセプトにしている、地価がぐんぐんあがっているとのこと。市のブランドがすごく上がる。ブランドはまちを豊かにする。ぜひ参考にしてほしい。

(2) 意見交換

②「ふじのくに輝く女性人材データバンク」について 意見交換を実施。(白井教授提案)

[白井]県のふじのくに輝く女性人材データバンクに、市内の女性が一人も登録していない現状。この状況についてどう取り組んでいけばいいのかについて、話し合い・意見交換をお願いします。

[後藤]初めて知りました。

[白井]商工経済系の県の部署と男女共同参画がずっと協力していて、例えば女性の起業を応援したり、女性の活躍と経済発展をつなげていくなかで、出てきたもの。女性役員登用事業というのがある。男女共同参画化が主催するかたちで、これがネットで公開されている。登録されている名前をクリックすると一人ひとりの情報が出る、というかたちです。詳しくは知らないが、女性の社長交流会というのが県にあると聞いた。こういった中に富士宮市の方が入っていないようなので気になって提案した。

B グループ

[伊藤]たとえば加茂先生なんかどうでしょうか。

[白井]そうですね、別に経営者じゃなくても、役員やマネジメント業務に携わる人や、弁護士などの専門的職業の方など、登録できるそうです。ぜひこういったところでアピールしてもいいのではないかと。横のつながりが広がれば、より自分の会社にとっていいことがあるのではないかと思います。

[朝日]知ってる人が何人かいます。山崎さんは金物の加工をしていて、かんざしを作って、銀座とか、海外にも進出しています。

[松浦]私も知っています。お父さんから引き継いだばかりのころは、男ばかりの職場で、あまりおしゃれな製品はなかったと聞いています。テレビでも紹介されていましたね。

[白井]県の女性社長交流会はとても盛んで、異種交流で仕事がそこで生まれるからということもあるそうですが、すばらしい人がたくさんいて、女性目線を生かしたり、ワークライフバランスのアドバイスだったり、保育業だったり、カフェだったり、英語教室だったり、自分が育児も家事も介護も全部経験してきたということが経営に活きる、良い経営者の方がたくさんいるということです。そういったことが見える化していけばいいかなと思います。

[松浦]信用金庫についても今は、いろんなことがわかっていろんな仕事ができないと、魅力ある業務、仕事につながっていかない。こういうところに参加して、違う発想も生まれて仕事に活きるし、人生も豊かになりますね。

[伊藤]女性応援会議の人選についても、依頼するときに大変厳選させていただきました。活躍されている皆さんにもぜひ、登録活用していただきたいですね。

[松浦]人生 100 年時代だからこそ、仕事以外のことも知る必要はありますね。

[白井]登録は大変ですか。募集は随時でしょうか。どうやって登録するのでしょうか。

[白井]大変ではないと思います。今も募集しているようです。

[後藤]なかなか詳細に、登録されている方の情報が掲載されていますね。

[朝日]閲覧する人はどのような目的でどんな人なんでしょうか。

[白井]おそらく異種交流を求めている人など、ビジネス目的もあるだろうと思います。

[後藤]いつから始まったのでしょうか。活用されているのでしょうか。

[白井]データバンクへの登録した方へのメリットというのは、女性同士の交流をつくってくれるとか、何かあるんでしょうか。

[白井]おそらくだと思います。登録だけ事業としてやっていると思うので、やっているとするとは別のところで交流しているかなと思うのですが。

[後藤]個人で起業されている方は、広報活動の一環として登録、というメリットはあるかもしれませんね。自分の仕事につながるということですね。異業種からのオファーがあるかもしれませんね。

[白井]そうすると、個人事業主の方のほうが登録しやすい、というか。

[白井]そうですね、でも企業も広報にはなりますね。たとえば、新卒の採用とかでも、女性の役員の方がいるかどうか、ということは調べるかもしれませんね。

[後藤]本当はかなり詳細に個人の情報が掲載されていますね。少しはずかしいですね、、、

[後藤]例えば、企業が女性向けの商品をつくりたいといった時に、それへの意見聴取だったり、アイデア出しだったりして協力を仰ぐとかそういったときに、登録者へのコンタクトをとる、といったことにも使えるのでしょうか。ただ、皆さんにこの存在はあまり知られていないでしょうね・・・

[滝川]県の会議で広報紙が配られるまで、全然知りませんでした。

[朝日]企業や業務の宣伝としては良いですよ。とても詳しく載っていますから。

グループ発表

[滝川]ぜひ、委員さんから登録をしていただけたらありがたい。富士宮に、活躍している女性がこれだけいる、ということを示したい。女性活躍の象徴にもなりますし、こういうところに名前が載るということは、前進の一步と言えらると思います。

[白井]登録する項目が多く、最終学歴や学位まで掲載していることは、組織や企業を超えて、個人的な情報まで載せるのかなど。それさえもビジネスにつなげていくことがあるのかと思った。登録者へのメリットについて話し合った。自分の仕事につながっていくかもしれない、大企業についても女性管理職登用アピールで新規採用にいいイメージを与えられる。企業と企業がつながって、異業種コラボレーションが生まれるかもしれない、といったことが出されました。

[白井教授アドバイス]

県でも経済的な発展ということで女性起業家について推しているところです。国の女性活躍の法律でも女性の起業支援について盛り込まれている。例えば、商工会でもそれをアシストすることに取り組んでいる。ただそのエントリーには書類が多いらしく、これを活用している人は少ないらしい。

静岡県の女性社長比率は、全国でワースト5位。女性の起業がしづらい土地柄なのかと。御殿場市が一番高く8%。牧之原市は最低で1%。ちなみに1位は青森県(10.6%)だそうです。

女性経営者同士で活発な交流をしていて、自らビジネスチャンスを生み出している。そこを、富士宮市としてもバックアップしていくような体制をとることは良いのではないかと。県では、女性リーダー育成セミナーということを実施したりしているそうです。

3 議事 終了

[滝川]短い時間ではありましたが、活発なご意見をたくさんいただきました。これを我々だけに限らず庁内に情報共有し、検討したいです。すぐに取りかかれる、といったところにはまだ結びつきませんが、引き続き同じ件についてもご意見いただきたいと思います。

[伊藤]皆様ありがとうございました。女性応援会議の中から何か生み出せるものがあるといいなと思います。他課も巻き込みながら、いろんな形で、市全体で女性活躍を考えていきたいと思います。